

Title	資本コスト計測
Sub Title	
Author	日下由美子(Kusaka, Yumiko) 村井俊雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第407号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0407">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0407</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0407

学生氏名 日 下 由美子

主査 村 井 俊 雄

副査 柴 田 典 男

所属ゼミナール 太 田 康 信 研

太 田 康 信

## 資本コスト計測

企業の財務体質強化が注目され、また投資機会の多様化する今日、企業の経営目的をその価値の最大化と考えたとき、運用、調達両面の一元的な基準としての資本コストを定量的に把握することは重要な課題である。本論文は、企業価値最大化を達成するための基準としての資本コストを現実を反映させて計測することを試みるものである。

まず第1章では、資本コストに関する基礎理論としてMM理論とそれに対立するいわゆる伝統的理論について述べ双方の問題点について検討する。続く第2, 3章では資本コストを実際に計測できるいくつかのモデルについて検討し、さらに90社を対象にして1980～1984年度の5会計年度について実際に計測を行う。続いて各モデル間のモデル式と計測結果について比較検討する。比較検討事項の主なものは、資本コストと株価および負債比率の相関についてで、負債比率の増加に伴う倒産のリスクが資本コストにどのように影響するかを探ること主目的とした。各モデル間の相違、その各々の特性および限界について比較検討の後、最後に、資本コスト計測モデルの今後のあるべき方向について言及している。